

- 8 なぜ、あなたがたは、寄留しようとしてやって来たエジプトの地でも、ほかの神々に犠牲を供えて、自分の手のわざによってわたしの怒りを引き起こすのか。こうして、あなたがたは自分たち自身を絶ち滅ぼして、地のすべての国々の中で、ののしりとそしりの的になろうとしている。
- 9 あなたがたは、ユダの地とエルサレムの通りで行った、自分たちの先祖の悪、ユダの王たちの悪、王妃たちの悪、自分たちの悪、自分たちの妻たちの悪を忘れたのか。
- 10 彼らは今日まで心碎かれず、恐れず、わたしがあなたがたとあなたがたの先祖の前に与えたわたしの律法と掟に歩まなかった。』
- 11 それゆえ、イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。『見よ。わたしはあなたがたに顔を向け、わざわいを下し、ユダのすべての民を絶ち滅ぼす。
- 12 わたしは、エジプトの地へ行ってそこに寄留しようと決意したユダの残りの者を取り分ける。彼らはみな、エジプトの地で、剣と飢饉に倒れて滅びる。身分の低い者も高い者もみな、剣と飢饉で死に、のろいと恐怖のもと、ののしりとそしりの的となる。
- 13 わたしは、エルサレムを罰したのと同じように、エジプトの地に住んでいる者たちを、剣と飢饉と疫病で罰する。
- 14 エジプトの地に寄留した後、ユダの地へ帰ろうとしているユダの残りの者には、逃れる者も生き残る者もない。彼らはそこに帰って住みたいと心から望んでいるが、わずかな逃れる者以外は帰らない。』』

* 特に断りが無い限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2022年3月27日(日)

礼拝メッセージノート

「 エジプト寄留に伴う偶像礼拝～変わらない罪の性質 」

| エレミヤ書講解-81 エレミヤ書 44:1~14 小野寺望 牧師

【 エレミヤ書 44章 】

- 1 エジプトの地に住むすべてのユダヤ人、すなわちミグドル、タフパンヘス、メンフィス、およびパテロス地方に住む者たちに対する、エレミヤにあったことばは、次のとおりである。
- 2 「イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。『あなたがたは、わたしがエルサレムとユダのすべての町に下した、あのすべてのわざわいを見た。見よ。その町々は今日、廃墟となって、そこに住む者もない。
- 3 彼らが悪を行って、わたしの怒りを引き起こしたためだ。彼らは、自分自身も、あなたがたも、父祖たちも知らなかったほかの神々のところに行き、犠牲を供えて仕えた。
- 4 それで、わたしはあなたがたに、わたしのしもべであるすべての預言者たちを早くからたびたび遣わして、わたしの憎むこの忌み嫌うべきことを行わないように言ってきたが、
- 5 彼らは聞かず、耳を傾けず、ほかの神々に犠牲を供えることをやめて悪から立ち返ることはなかった。
- 6 そのため、わたしの憤りと怒りが、ユダの町々とエルサレムの通りに注がれて燃え上がり、それらは今日のように廃墟となって荒れ果てている。』
- 7 今、イスラエルの神、万軍の神、【主】はこう言われる。『なぜ、あなたがたは自分自身に大きなわざわいを招き、ユダの中から男も女も、幼子も乳飲み子も断って、残りの者を生かしておかないようにするのか。』

(4ページへ続く)

◆ はじめに ～人類の処しがたい問題とその原因

1.ウクライナ侵攻：大失敗の歴史を繰り返そうとするロシアの愚行

(1) ヨハネ15：13の誤用：本来は十字架も厭わないキリストの愛を指す。

*キリストが誰の命を奪っただろうか？御言葉の悪用は悪魔の常とう手段。

2.聖書が示す人間観「罪の性質」

(1) 神の助けなしには、自力回復不能な性質。

(2) 神に敵対する性質：不信仰、また偶像を好む霊的不品行を含む性質。

(3) すべての時代の人類が生まれながらに持っている問題。

①初めの人アダムの墮落以降、罪の性質は例外無しに受け継がれる。

②世界に溢れる悲しい出来事は、すべて「罪」に起因する。

*アダムを墮落させ、人類の「罪」をあおり、神に敵対させる者（悪魔の存在）

3.選びの民であっても、罪の性質は簡単には変わらない。

(1) イスラエルの歩みは頂上から下り続け、ついにふりだしに戻る。

(2) ユダの民にとって、エジプト寄留は不信仰と頑なさの表れである。

①バビロンによるエルサレム陥落を見ても、その性質は変わらない。

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 自力回復できない罪人と神による救い

*このメッセージは、ユダの民の不信仰から、私たちの問題と解決を学ぶものである。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

I 民の現状と、過去への回顧（1～6節）

1.ユダの民の現状

(1) ユダの民は、神のみこころに反して既にエジプトに寄留していた。

①具体的な地名：ミグドル、タフパンヘス、メンフィス、パテロス地方

②かつて奴隷から召された民が、再び戻ろうとしている。

(2) エジプトに寄留する民の性質は、依然として不従順で不信仰である。

①言い換えれば、奴隷の民の性質は、依然として罪の奴隷である。

②忠実な預言者エレミヤを通して、神の警告のことばが再び下る。

*「エルサレムに下ったさばきを忘れるな、同じことを繰り返すな」という意図。

2.ユダの町の現状とその原因

(1) エルサレムとユダのすべての町は、廃墟となった。

§2節「あなたがたは、わたしがエルサレムとユダのすべての町に下した、あのすべての

わざわいを見た。見よ。その町々は今日、廃墟となって、そこに住む者もない。

(2) そうなった原因は・・・

①ユダの民が他の神々に香を焚いて仕えた：偶像礼拝に向かう傾向。

②彼らは言い訳できない：*神は多くの預言者を遣わし、偶像礼拝への警告を

何度も語らせた。*神が悪いのではなく、律法に従わない民の不信仰が問題である。

II 寄留する民の霊的状态（7～10節）

1.変わっていない「罪の性質」

(1) これ程の悲劇を通してながら、偶像礼拝を好むという性質は変わっていない。

①「エジプトに行くな」という命令を、まず破っている。

*はじめはゲダルヤ暗殺に対する安全保障上の恐怖からである。

*恐怖のために、神のことばよりも自分たちの判断が正しいと評価した。

②さらに、民はすでにエジプトの種々の偶像礼拝にどっぷり浸かっている。

*このような民の性質を見抜き、神はまたエジプト行きを留めたのだろう。

(2) 偶像礼拝を続けるなら、寄留している民全員を滅ぼす結果となる。

2.ユダの民のうちにある悪 9節

(1) 悪の列挙：①ユダの地とエルサレムの通りで行った悪、②自分たちの先祖の悪

③王妃たちの悪、④自分たちの悪、⑤自分たちの妻たちの悪

(2) 初めて「妻たちの罪」が挙げられる。

①家庭における妻の役割に従う：夫（家庭のリーダー）を支える。

②与えられた役目に留まらず、むしろ積極的に偶像を家庭に持ち込んだ。19節

III さばきの宣告・3つの要点（11～14節）

(1) 「剣とききん」から逃れてエジプトに来たが、最後はその呪いで滅びる。

*どこに逃れようとも、神は遍在である：世の知恵を用いてさばきを免れることはできない。

(2) エジプトに寄留した民で、ユダの地に帰れる者はいない。

(3) しかし少数の者は逃れて帰るだろう。

①この者たちは「イスラエルの残れる者」である。

*不信仰に従い進んで寄留した者とは別に、無理やり同行させられた人々。

②彼らが信仰を持ち続けるなら、神はあわれみを示してくださる。

◆ まとめ：自力回復できない罪人と神による救い

1.この一連の出来事が持つ歴史的意味

(1) **歴史的な転換点**：モーセ以降続いた神の臨在、神政政治の形態は終了。

*イスラエルに対する計画、特別な役目が終わった訳ではない。

(2) 神の視点：バビロン捕囚をもって、メシア誕生の舞台設定が整った。

*この民は、神の計画よりも個人的な確信（バビロンへの恐れ）を重んじた。

2.神の方法によってのみ救われる

(1) 聖書が神の方法で逃れるように命じるもの：罪、そして死後のさばき。

①神のことばに背を向け、頑なな者が自力で正されることはない。

*預言者たちの時代、自宅に近い丘に祭壇を築き、いけにえをささげた。

②これらは、神が定めた方法から外れたものであり、預言者たちは非難した。

(2) 信仰で従う者には、人間の想像以上の祝福が用意されている。